

トランスジェンダーの性の在り方と生きやすさ

3年2組30番 舞田淳之介

Keyword:「セクシュアルマイノリティ」「性の在り方」「ジェンダーフリー」

1. はじめに

まず最初に、私は現時点において性別不合(※1)であると自認していることを前提として記載する。私は生きにくさ、過ごしづらさを感じていたのでセクシュアルマイノリティ(以下、SGMという)とセクシュアルマジョリティ(※2,3)の互いの過ごしやすい環境や関係を考察し、自ら及び似た境遇の方の生きにくさの解消、過ごしやすさに繋がることを願い、探究を始めた。

2. 序論

LGBTQ+ などのSGM当事者の方(以下、当事者という)は全国で9.7% (左利きの人と同等)いると算出されている(電通)。そしてSGMに対する理解も進んできており(中西,2017)、行政でも理解を推進する取り組みが行われている(富田林市役所)。不正確な情報により、当事者を傷つけることがあるため、正確な情報を得る取り組みが望まれる。

このように理解が進んできているにも関わらず、未だ各種の様式の性別欄が2択であることも多く、学校の制服の選択肢がない場合もある。本校も例外ではなく、国際高等学校服装規定に於いては、1 制服等(1)制服② ④ ⑤に定められている通り、性別を指定していない。しかし、採寸時に男子制服の選択欄に「スカート」や「リボン」の選択欄がないことから、トランス女性の存在は想定されていないと考えられる。男子の制服に「スカート」を導入している学校もある(カンコー学生服)が、どの導入校も「選択可」ではなく「着用許可」という表現となっていることから、男子が制服としてスカートを着ることは例外的対処であると考えられる。

3. 本論

中西(2017)は、現状本人がカミングアウトをすること以外にセクシュアルマイノリティであることを知る術はない。故に、無自覚のうちに当事者の存在を否定してしまったり性別を特定する表現をしてしまったり当事者がSGMであることを暴露(アウティング(※4))してしまったりすることがあると主張している。実際、私が1年生の時の縦につながる交流会でSGMの議題になったとき、同グループの先輩が「身近に当事者がいないから分からない」と仰っていた。そのとき私は、カミングアウト(※5)するか否かについて非常に悩んだが、「恐怖心」が勝りカミングアウトしなかった。これは、アウティングの可能性への怖さだった。今思えばカミングアウトしていた方が自分とグループメンバーの考えを共有するきっかけになり、互いにより考えを深め合えたのではないかと悔いている。

カミングアウトに際しては、SGMを支援する「アライ(※6)」の存在も重要である。アライの存在によって、当事者の心理的負担を軽減し、当事者の困難を伝えることや誤解、偏見、差別の解消に貢献できる(村井)。

また、町田(2018)はこれまでのトランスジェンダーの研究では性・性別違和は個人内部にあるとされてきたが他者との関わりのうちに自ずとできあがっていく面があるとして、関係論的視座で促え直していくことが必要であると述べている。

私の性別不合でも中学生時代、他の男子と同じような変声期が起こることに嫌悪を覚えた。また制服も学生蘭服(学ラン)が著しい嫌悪を感じたため頑なに着ない、など周りから「男子」として見られることが嫌だった。このように、他者からの見られ方、即ち他者との関わりから性表現が作られていった、と言えると思う。

さらに土肥は、

「第1に、TGがおこなう外見や振る舞いを変える実践は、性別の位置どり(教室内の他の女子/男子との距離)を変える行為であるということ。第2に、性別の位置どりの変化に対する他者の承認のもと、TGによる性別の境界線の越境や再設定により、他者からの性別の扱いが変化すること。」(土肥,2019,p.109)(TGとはトランスジェンダーのことである)

と述べている。実際私は、「外見や振る舞いを変える実践」として、髪の毛を伸ばして括ったり声を高く保ったり家ではスカートで過ごしたりということをしており、「他者からの性別の扱いが変化する」では後述の「その人で見ている(性別で見えていない)」という意見や親しい友達からは「殆ど女子だ」と言われたことから、土肥が明らかにした2点は私の周囲において事実であると考え

4. 結果

私は、自身の心理的負担の軽減と皆に対し他人事でない、身近であるという意識をもたせることを目的に、グローバル探究の発表の機会にグループのメンバーにカミングアウトを行い、それぞれの反応や心情の変化を聞き出した。結果、グループメンバーからは「セクシュアリティに対して否定することは間違いだと思う」「相手を一人の人間として見ているので性別では見えていない」「人によって対応が変わるかもしれない」「特に何も思わない」などの意見があり、いずれも肯定的、中立的な意見であった。これにより少なくとも当グループのメンバーは当事者である私自身に対して、否定的、偏見的な見方・考え方をしていないと考える。

5. おわりに

私はこの探究を通して、自らのジェンダーを確立できたと思う。当初の活動目標はジェンダーレスではなく、ジェンダーフリーを目指してスカートを着用して学校生活を過ごし、前例となろうと考えていた(担任、学年主任との面談で前例がないことや誤解される可能性があることも実行を妨げる要因であった)。しかし、前述の恐怖心や思い違いを招く可能性があることなどから実行できなかった。当初の計画よりも大幅に簡易なものとなってしまったが、身近にセクシュアルマイノリティの人がいるということ、様々な性の在り方について知るきっかけとなったならば幸いである。

注解

※1 性別不合 出生時の性とジェンダーが不一致なこと(MSDマニュアル)

※2 セクシュアルマイノリティ 性自認、性的指向、性表現が一致しない状態
(JobRainbow (A))

※3 セクシュアルマジョリティ 性自認、性的指向、性表現が一致する状態
(JobRainbow (B))

※4 アウティング カミングアウトされた人が第3者に暴露する行為のことで、著しい人権侵害になりうる(東京都人権啓発センター)

※5 カミングアウト 自らがSGMであることを他者に打ち明ける行為のこと(東京都人権啓発センター)

※6 アライ LGBTQ+など性的マイノリティー当事者のことを理解し、支援のために行動すること。「仲間・同盟」などの意味を持つ英語の「Ally」が語源となっている。(村井)

6. 参考文献

町田奈緒士(2018).「トランスジェンダー者の性別違和についての関係論的検討」,『人間・環境学』,第27巻,17-33頁

<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/server/api/core/bitstreams/63034aaa-1df3-45c8-94eb-78d8382f4ede/content>

土肥いつき(2019).「トランスジェンダーによる性別変更をめぐる日常の実践—あるトランス女性の学校経験を通して—」,『社会学評論』,第70巻,2号,109-127頁
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsr/70/2/70_109/_pdf

中西絵里(2017).「LGBTの現状と課題
— 性的指向又は性自認に関する差別とその解消への動き —」,『立法と調査』394号
https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2017pdf/20171109003.pdf

二見優心(2024-03-09).「『男女別のスペース』のあり方について考える:トランス女性による外見管理の実践から」,『上智大学社会学論集』,第48巻,113-134頁
<https://sophia.repo.nii.ac.jp/records/2008691>

カンコー学生服調べ
<https://kanko-gakuseifuku.co.jp/media/homeroom/vol211> 2023年8月29日

富田林市役所
<https://www.city.tondabayashi.lg.jp/soshiki/19/37386.html> 2025年11月14日

村井真子 朝日新聞の記事より
<https://www.asahi.com/sdgs/article/15006745> 2023年9月21日

電通「LGBTQ+調査2020」
<https://www.dentsu.co.jp/news/item-cms/2021023-0408-02.pdf> 2021年4月8日
(最終更新2024年2月20日)

東京都人権啓発センター
<https://www.tokyo-jinken.or.jp/site/tokyojinken/tj-98-column.html> 2023年5月31日

MSDマニュアル
<https://www.msdmanuals.com/ja-jp/home/10-%E5%BF%83%E3%81%AE%E5%81%A5%E5%BA%B7%E5%95%8F%E9%A1%8C/%E6%80%A7%E5%88%A5%E4%B8%8D%E5%90%88%E3%81%8A%E3%82%88%E3%81%B3%E6%80%A7%E5%88%A5%E9%81%95%E5%92%8C/%E6%80%A7%E5%88%A5%E4%B8%8D%E5%90%88%E3%81%8A%E3%82%88%E3%81%B3%E6%80%A7%E5%88%A5%E9%81%95%E5%92%8C> 2023年7月

JobRainbow
<https://jobrainbow.jp/magazine/whatissexualminority> 2025年7月2日(A)
<https://jobrainbow.jp/magazine/cisgender> 2025年7月2日(B)

奈良県立国際高等学校 服装規定

奈良県立国際高等学校 服装規定

社会には、さまざまな場面でしかるべきとされる服装があり、これらは周囲への配慮から始まったエチケットです。国際高校生として、制服を着用するときは、その意味を深く理解し、常に清潔、端正で上品な身だしなみを心がけることが大切です。以下に示す規定はこの趣旨にそって定めたものですから、各自の自覚によりこの規定を生かすように努めてください。

1 制服等

(1) 制服

- ① 指定の紺色ブレザー型上着
- ② 指定の冬用ズボンまたはスカート
- ③ 指定の白無地長袖カッターシャツ
- ④ 指定のネクタイまたはリボン
- ⑤ 指定の夏用ズボンまたはスカート
- ⑥ 指定の半袖フルオーバーシャツ、ブラウス

(2) セーター、カーディガン、ベスト

基準は下記に示すものとする。ただし、必ず許可を受けること。

また、上着を着用せず、セーター等での登下校は認めない。

- ① 色は黒・紺・茶・グレー・白またはそれに類するもので無地のもの。
- ② 丈は上着丈に収まる標準丈とする。
- ③ フード付きのものは認めない。

(3) 防寒着（コート・ウインドブレーカー類）

丈は標準丈とし、華美でないもの。部活動等で指定されている物は、クラブ顧問の判断で可とする。

上記の服装の中で、体調や天候を勘案し、適切に着用すること。

※制服は絶対に改造してはならない。もし改造が発覚した場合、改めて購入すること。

2 頭髪・装身具等

(1) パーマ・染色・エクステ・カール及び化粧をしてはならない。

(2) ピアス・ネックレス・指輪・ペンダント・香水・色付リップ・マニキュア・カラーコンタクトその他装身具をつけてはならない。